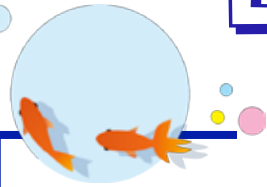


ENGLISH NOW! SUMMER 2015

NEWSLETTER FOR OUR STUDENTS....



入試が変わる！「覚える」から「考える」へ

ご存知の通り、2018年からは小中高での英語指導要領が大幅に変わる見通しです。小中高を通して一貫した学習到達目標が明示され、その目標は現行指導要領よりかなり高くなるそうです。今後は、「小学校卒業時には英語の読み書きを含めた定型表現が使えること」、「中学卒業時には現在の高校中級程度の英語力を身に付けること」、「高校卒業時には現在の大学中級程度の英語力を身に付けること」が到達目標です。「現在の大学中級程度の英語力」とは「英語を母国語とする人と自然に日常会話ができるレベル」であり、今後は高校卒業時にはこのレベルに到達していることが求められるようになります。

更に昨年末、文部科学省はグローバル時代にも適応出来る教育を目指し、「2020年、センター試験を廃止して新テストを実施し大学入試を改革する」という発表をしました。現在の小学校6年生が受験する大学入試から新テストが導入される見通しです。この新テストでは英語の受験方法も全く異なる方針で、一部TOEFL等の外部テストの受験が要求されるとも言われています。

現在の大学入試は「読む」「聞く」の能力を問う内容となっており、中でも「読む」は最も重視されている能力です。しかし2020年以降の入試ではこれに「書く」「話す」も含めた能力（＝4技能）をバランスよく評価する方針だといえます。私立大学入試では既にこの方式を取入れている大学もあります。

「話す」の評価には「英語で討論、交渉が出来る能力」が求められ、また「書く」評価においては「論文執筆などを念頭に置いたアカデミックな英文作成の基礎力」を保持しているかが問われることでしょう。

つまり、これまでの英語の試験で高得点が期待できた「受験英語」から「実践的な英語力」の習得が求められるようになるのです。それは従来の「英語を理解出来る」という範囲を超え、「英語で自分の考えを如何に論理的に表現出来るか？」が問われるようになることを示しています。

この教育革命は、受験生のみならず指導者にも大きなプレッシャーを与えることでしょう。これまでは英文読解や英文法の指導が主だったのに対し、英会話力や英論文執筆の能力等も求められるようになる訳ですから.....。正直、5年後には開始されるこの新テストに対応出来る英語の指導者はどれ程存在するのか不安に感じます。

「覚える」から「考える」へ。

これは2020年以降の大学入試のテーマだと言います。

語学学習では「10歳の壁」と呼ばれている「習得の壁」があります。10歳以降は「体で言葉を習得することが難しくなる」という壁だそうです。

真の「英語力」そして「英語で考える力」を身に付けるため、お子様には是非に年齢の低い内から出来るだけ多くの「英語のインプット、アウトプット」に触れていただきたいと思います。これからのグローバル時代を生き抜く上で貴重な「財産」となるはずですから.....。

サフェル 篤子



School information!

スクールからのお知らせ

● 受付スタッフの退職及び新スタッフに関しまして

7月末を持ちまして受付スタッフのHitomiが退職することになりました。生徒様、保護者の皆様には長い間大変お世話になりました。Hitomiからのコメントは別途お知らせさせていただきます。

また、6月よりYuriとDaikiが受付スタッフとして新たにENGLISH NOW!の仲間入りをしました。彼らにつきましても、改めてご挨拶をさせていただきます。これからどうぞよろしくお願い致します。



School information!

スクールからのおねがい

● 駐車場及びテラスのご使用に関しまして

キッズクラスの開始、終了前後のお時間帯はご送迎のお車で駐車場が混み合います。大変危険ですので、駐車場でお子様を遊ばせることはなさいませんようお願い致します。

またデッキにつきましても、思わぬお怪我に発展する危険がございますので、走り回ったり柱に登ったりしないよう、くれぐれもご注意下さいませ。

安全な環境作りのため、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。